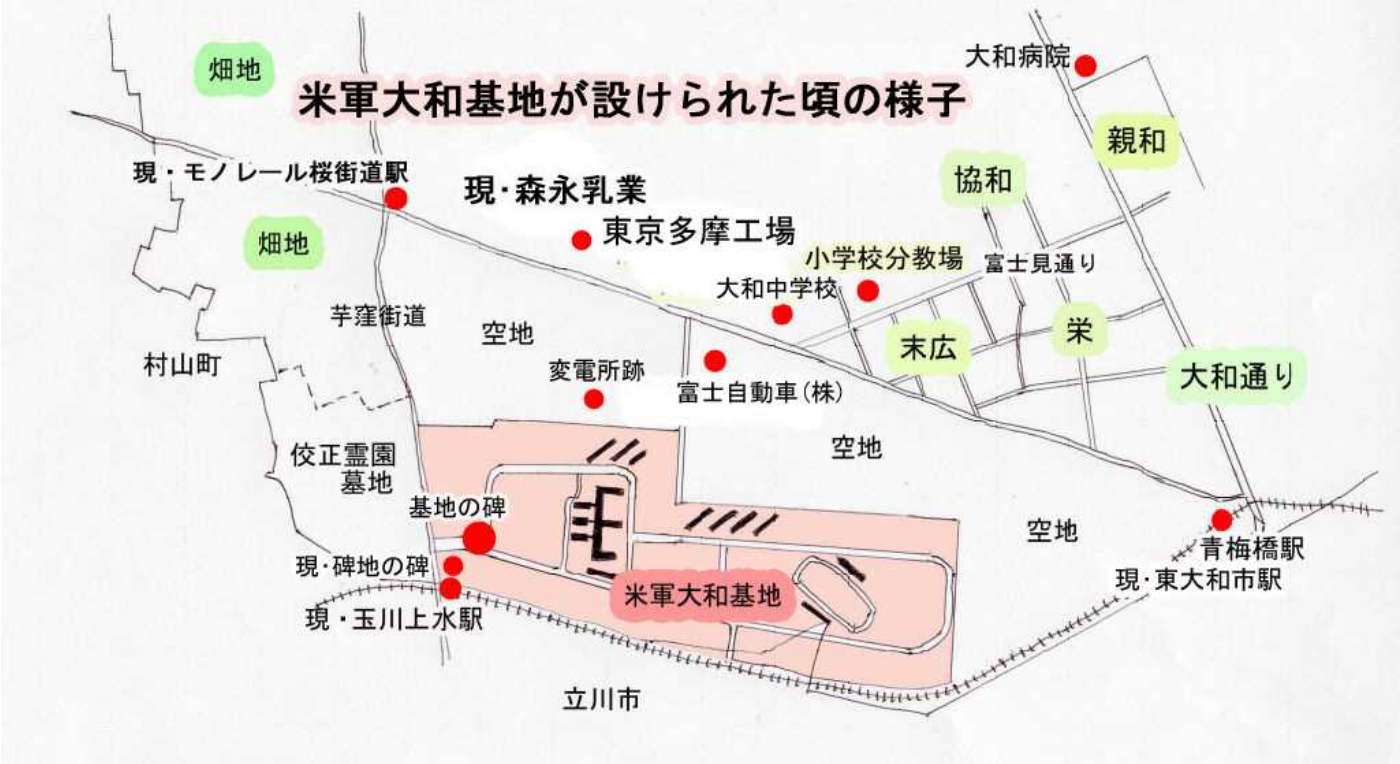
ようこそ、お待ちしておりました！！

遊々歩こう会（西東京市）の皆様

ゆっくりお楽しみ下さい

東大和観光ガイドの会（2016.07.13.）

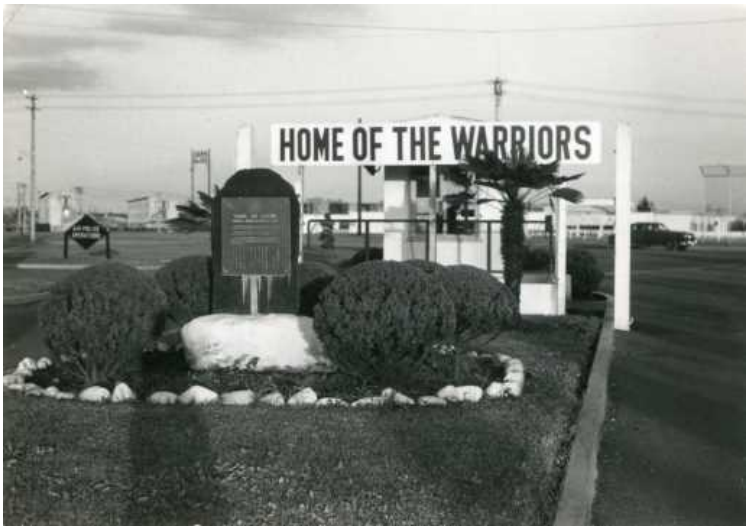
１．米空軍大和基地（宿舎）記念碑



昭和 27 年（1952）、国から西武鉄道の所有地を立川飛行基地の拡張米軍用地にするため、調達するとの通知が来ました。村は反対運動を展開します。最終的には西武鉄道所有地が土地収用法による強制収容によって国に買収されました。

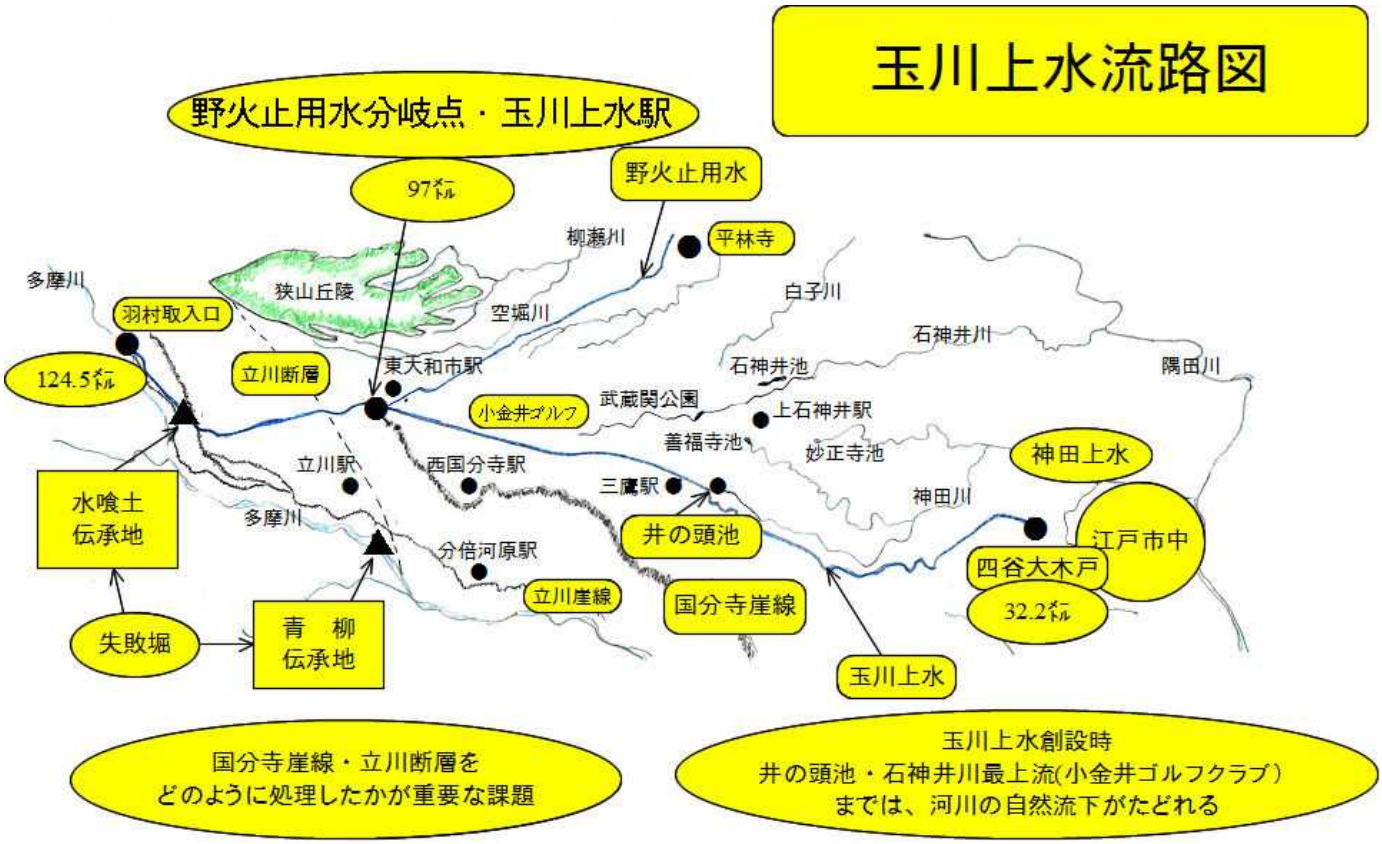
昭和 31 年（1956）「FA03012 立川飛行場大和宿舎地区」として開設。米空軍専用の多目的施設、極東空軍司令部の指揮下、第 6000 空軍基地部隊に所属する基地職員養成センターでした。子弟のためのハイスクールも設けられていました。

昭和 48 年（1973）、3 年後に返還と決定されました。玉川上水駅広の石碑は基地正門に設けられていたものを移設したものです。



基地正面入り口に設けられた碑

２．玉川上水と野火止用水の分岐点（分水口）



玉川上水の工事

様々な説がありますが幕府の公式記録は次のように記します。　総奉行松平伊豆守信綱

・承応 2 年(1653)正月 13 日「麹町・芝口の町人　水道の儀訴えのところ、相済み、七千五百両を賜る。水筋は玉川（多摩川)よりこれを取る」

・承応 3 年(1654)6 月 20 日「多波川水道　当御地へ用水来候　御褒美のため　請取候町人へ　金子三百両これを下さる」

野火止用水の工事

玉川上水工事完成の褒美として「上水懸高三歩」が総奉行であり川越藩主であった松平伊豆守信綱に分水として与えられました。

工事は、承応 4 年 (1655) 2 月 10 日着工、同年 3 月 20 日完成、野火止着工の 2 年前、玉川上水工事着工と同じ年の承応 2 年(1653)に、野火止地方に新田開発要員 54 世帯を移住させるという手際よさです。まさに知恵伊豆！！

清流の復活

昭和 48 年(1973)に玉川上水からの分水が停止され、流れが途絶えました。地域住民の復活要望の声は高く、昭和 49 年(1974)、野火止用水歴史環境保全地域（小平市中島町から東久留米市小山五丁目に至る野火止用水路及び隣接地）が指定されました。

昭和 61 年(1986)、東京都下水道局多摩川上流再生センター(昭島市)で、下水処理水高度二次処理をした水を活用して、「清流復活事業」が行われました。小平監視所下流の玉川上水、野火止用水はその水を利用しています。

３．東京都水道局小平監視所

羽村の取水堰から引き入れた多摩川の原水は玉川上水を通じて、この地まで流れます。その水は東村山浄水場へ運ばれます。そのため、流水中に含まれる土砂やゴミの沈殿・除去を行い、その水質監視を行う施設です。

当監視所～ 東村山浄水場間の導水は「砂川線」と呼ばれる管渠で行われ、煉瓦敷となった野火止用水の下に埋設されています。

前ページ図に小平監視所の左側に小平分水（新堀用水）の位置を記しました。玉川上水と並行して流れていますが、明治 3（1870）年に行われた玉川上水通船のため、野火止用水から千川上水までの 9 本の分水がまとめられました。現在も、多摩川の原水が流れています。

玉川上水　2001 年 7 月 28 日撮影

清流復活のためのタンク

４．小平・武蔵村山・東大和三市共同ゴミ焼却場・一宮神社

小平監視所から東大和市駅方面に向かうと高い煙突が見えてきます。小平市、東大和市、武蔵村山市の３市が共同で運営する清掃工場です。34 万人余のごみを処理しています。玉川上水と野火止用水の三角州にあたる中島町に建設されています。

昭和 35 年(1960)に、当時の小平町(現小平市）が運営していたごみ焼却場に、昭和 40 年、小平市、村山町、大和町の 3 市町が一部事務組合設立、共同処理をすることになりました。ごみ焼却炉 3 基、粗大ごみ処理施設 1 基が稼働しています。

足湯施設

余熱を利用して、平成 19 年から「こもれびの足湯」（ 面積：約 1,140 m 2）が開設されています。

一宮神社

中島町一番地に一宮神社がまつられています。野火止用水に水食土伝承を伝えます。

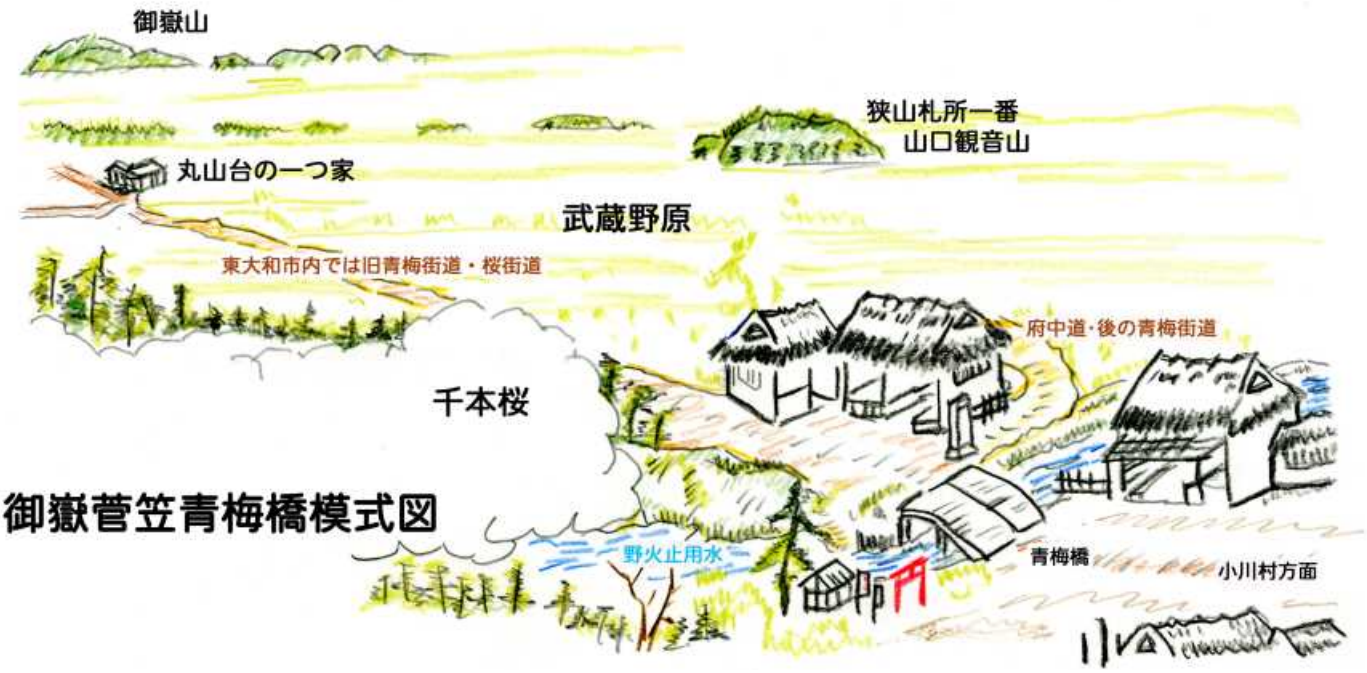
「玉川上水が完成して間もない頃、徳川幕府の老中松平伊豆守信綱は武蔵野開発のため、小川村の分岐点（小平

監視所）から新河岸川まで約３０キロメートルを掘り野火止用水を作りました。しかし、「水喰土（みずくらいど)」といわれる関東の土のためこれが地下に吸い込まれ、なかなか水は流れませんでした。

そこで、小川開拓者のひとり宮崎主馬（みやざきしゅめ）は分水口の近くに祠を建て水分神（みくまれのかみ）と豊受神（とようけのかみ）を祭って、山の神と称し、通水祈願をしました。神慮にかなったのか、突然大雨が降り出し、一夜にして玉川上水の清流は水音をたて野火止用水を流れたのです。

これによって、この祠は一宮神社という社号を賜ったと伝えられています。そして、農耕の守護神として崇められ春２月の迎えの祭り、秋１１月の送りの祭りは今なお続けられています。」（解説板）

５．青梅橋



現在の東大和市駅周辺は青梅街道と野火止用水が交差する箇所で、架かる橋が青梅橋と呼ばれました。青梅・御岳山への通過点にあった事から、天保 5 年（1834）に製作された御嶽詣の道中記に、当時の青梅街道、青梅橋、その周辺の姿が書き残されています。

６．瘡守稲荷

上記図にも記されていますが瘡守稲荷がまつられていました。茶店や馬の休場があり、旅人と共に周辺の地域から厚く信仰されていました。

現在は駅前開発の関係から別の場に移転しています。

７．東大和市駅

前ページの絵と同じ方面からの現在の姿

昭和 50 年代初め高架工事が進む青梅橋駅

西武拝島線東大和市駅の全身は青梅橋駅でした。昭和 55 年(1980)7 月 17 日、鉄道が高架になるまでは青梅街道と平面交差をしていました。

さらに遡ると、この地域にあった軍需工業･日立航空機(株)が、軍需物資輸送のため、昭和 19(1944)年 5 月 1 日、小川～日立航空機立川工場間（4,520 ㍍）を結ぶ専用鉄道を開いたことによります。終戦後、専用鉄道は一度、日興工業（株）の所有となり、これを西武鉄道が買い受けました。

・昭和 25 年(1950)5 月 15 日　小川－玉川上水間、上水線として開業（非電化＝ガソリンカー）
・昭和 25 年(1950)5 月 15 日　青梅橋駅（現東大和駅）開業

・昭和 37 年(1962)9 月 1 日、小川～萩山間が開通、西武新宿～玉川上水駅間直通運転開始
・昭和 43 年(1968)5 月 15 日、玉川上水～拝島間が開通(7.1 ㌔)し、西武拝島線と改称
・昭和 54 年(1979)3 月 25 日、青梅橋駅を東大和市駅と改称

７．野火止用水のせせらぎ

左図、分水口から東大和市駅を通過し、向原地区に入るまで、野火止用水は煉瓦の道の下に埋設管で流れて居ます。潤いとかっての用水の姿を表現するため、この地点で一部がせせらぎとなって姿を現します。

右図、せせらぎを利用して、熱心なボランティアの方々の努力によってホタルの養殖が行われています。ヘイケボタルの幼虫のエサとなる「カワニナ」「モノアラガイ」などの保護と増殖のために特別な柵を設けています。残念ながら、ホタルの数はここ数年減っています。5 月中旬から 6 月にかけての美しい光の舞に、期待の声が高まっています。

８．野止用水放流口

左図　東大和市向原 4 丁目地内、ここでせせらぎの道は二方向に分かれます。左方向には東村山浄水場への導水管(砂川管)、正面に向かって野火止用水です。
右図　この地点で、野火止用水は開削当時の素掘りの用水路に、あたかも江戸時代の流れを蘇らせるかのように姿を現します。周辺には野火止緑地が設けられ、全体としての景観が保全されています。

９．野火止用水自然保護林・野火止橋・用水工夫の像

用水工夫と野火止橋

野火止橋のたもとに東大和市が設置したモニュメント「用水工夫」が散策者を迎えます。美男子で、人気があります。説明版には次のように彫られています。

「野火止用水は承応四年（1655）、徳川幕府の老中松平伊豆守信綱によってつくられ、小川村の分岐点（現在の小平市中島町）から新河岸川まで六里（約 24 キロメートル）を四十日間で堀り通したといわれる用水路です。この用水のおかげで、用水周辺の田、畑がうるおい、米の取れ高は十倍にもなったそうです。

また、美術工芸品の設置されたこの場所の町名は新堀といいますが、この掘りができたときに付けられたといわれる新堀という小字名を採用したものです。」

さて、いったい、この工夫さん、工事の時はどこから来たのでしょう？

地元の村人？

川越の人？

野火止地方（新座市）の人？

・・・？

困ったもので、今もって、正確なことがわかっていません。

１０．東野火止橋

東大和市と小平市を結ぶ新しくつくられた道に架かる橋を東野火止橋と名付けました。野火止用水はここから先しばらく、住宅地の中を流れます。

お疲れ様でした。またのお越しを心からお待ちしております！！